

資料1 (R1) 「羊は眠れり」 Sheep Fast Asleep 略解

作成(R1) 2023-12-23 岡本雅幸

1. 引照聖句 ルカ 2:8-20

2:8 さて、その地方で、羊飼いたちが野宿をしながら、羊の群れの夜番をしていた。

2:9 すると、主の使いが彼らのところに来て、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。

2:10 御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。見なさい。私は、この民全体に与えられる、大きな喜びを告げ知らせます。

2:11 今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。

2:12 あなたがたは、布にくるまって飼葉桶に寝ているみどりごを見つけます。それが、あなたがたのためのしるしです。」

2:13 すると突然、その御使いと一緒におびただしい数の天の軍勢が現れて、神を賛美した。

2:14 「いと高き所で、栄光が神にあるように。地の上で、平和がみこころにかなう人々にあるように。」

—†— —†— —†—

2:15 御使いたちが彼らから離れて天に帰ったとき、羊飼いたちは話し合った。「さあ、ベツレヘムまで行って、主が私たちに知らせてくださったこの出来事を見届けて来よう。」

2:16 そして急いで行って、マリアとヨセフと、飼葉桶に寝ているみどりごを捜し当てた。

2:17 それを目にして羊飼いたちは、この幼子について自分たちに告げられたことを知らせた。

2:18 聞いた人たちはみな、羊飼いたちが話したことに驚いた。

2:19 しかしマリアは、これらのことをすべて心に納めて、思いを巡らしていた。

2:20 羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて御使いの話のとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。

2. 作詞 明治 40 年(1907)

三輪源造 (1871-1946 年) は、越後国与板 (現在の長岡市与板地域) の出身です。

1886 年 (明治 19 年) 6 月 20 日同志社教会で洗礼を受ける。同志社普通学校を経て、1899 年 (明治 32 年) に同志社神学校を卒業。

1899 年 (明治 32 年) より松山女学校 (現・松山東雲学園)、1903 年 (明治 36 年) より横浜共立女学校 (現・横浜共立学園)、1904 年 (明治 37 年) より同志社普通学校、および同志社大学予科、女子専門学校で国語、国文学を教えました。

教職に携わったわら日本の讃美歌の編纂に尽力し、幾つかの創作讃美歌を発表しています。(現行讃美歌の 412、466)

この歌詞への、日本の讃美歌の発展に貢献した牧師、学者、讃美歌作家の方々の評語をご紹介します。

- ・クリスマスに際して「あめつちさながら御国と変わるすえの世」に遙かに思いを馳たもの
- ・世界の将来に対するキリスト者の想いを歌っている
- ・その思いが日本的風土のなかで八六調四句という形式の荘重なしらべでうたいあげられているところは、新年を待望するうたを連想させるものがある
- ・花鳥風月趣味の自然感情に近づき過ぎて、信仰詩としての性格を逸脱している
- ・フランスの古いキャロルに似たナイーブな美しさの中にも非常に個性のある曲であり、邦人讃美歌曲中の傑作のひとつ
- ・この讃美歌は、外国でもよく歌われている数少ない日本人による讃美歌の一つ

3. 明治 42 年(1909)刊 明治版『讃美歌 第二篇』第 57 番

この詞は、当時の文壇の主流であった美文調(美しい語句を用い、修辞上の技巧を凝らした文章)の詩として作られ、明治版『讃美歌第二篇』(1909)に初めて収録されました。なお、1940 年に『青年賛美歌』が編集される迄は、マーガレット ブラウンの曲が配されていました。

4. 作曲 昭和 16 年(1941)、太平洋戦争開戦の年

鳥居忠五郎(1898-1986 年)は、北海道の現在の遠軽(えんがる)で伝道をしていた貧しい牧師の息子であった。彼は、小学六年から明治学院中学の四年まで東京の親戚の家に下宿していたが、その家の主婦は、まだ幼い彼を下男のようにこきつかったとのこと。しかし、彼はひとことも不平をもらさなかったので、家族は彼の下宿生活が地獄であることを、何も知りませんでした。

実は、北海道の家にはいた彼の愛する妹が大変な難病を患っており、父母はそのことで日夜心を痛めていたので、彼は黙って日々の苦しみに耐えていたとのこと。この下宿生活での苦しい体験が、鳥居忠五郎という優れた讃美歌作曲家を生み出したとも言われています。

ところが、彼の苦労が父母の耳に入り、旧制中学四年の九月から明治学院の寄宿舎へボン館に移ることができました。今まで十分な食事もできず骨と皮であった彼の体重が、七ヶ月で 15 キロも増えたそうです。

明治学院神学部を終え、念願であった東京音楽学校(現東京芸術大学)の声楽科で学び、さらに研究科へと進み、同時に霊南坂教会のオルガニストとして聖歌隊の指導にあたり讃美歌編纂の仕事にも携わりました。

彼の唯一の慰め、そして喜びは、教会へ通う事でした。暑い日も寒い日も教会へ通い続けました。そこで讃美歌を歌い、イエス様があなたを愛しておられると伝える聖書の言葉によって、慰め励まされたからです。教会以外では耳にすることができない慰めに満ちた曲に彼の心は躍りました。



1940 年に『青年賛美歌』が編集される時、日本人が作った曲が欲しいとの依頼を受けた彼は、この歌詞を常にポケットに入れ歩きながら推敲を重ねました。そしてある時、世田谷と目黒の境にある柿の木坂を流れる呑川(のみかわ)のほとりを散歩している時にこの曲が生まれました。帰宅して一気に曲を仕上げたのですが、その曲が国際的に有名になるとは夢想だにしませんでした。

← 現在の呑川(のみかわ) 柿の木坂支流緑道

昭和 47 年より暗きょ化され、55 年には全長 2 キロメートル余りの緑道となった。

画像出典 : https://www.city.meguro.tokyo.jp/kuminnokoe/bunkasports/areanavi/nomigawa_kakinokizaka.html

5. 昭和 29 年(1954)刊 『讃美歌』第 119 番

現行讃美歌では、初出歌詞の二番が大幅に改訂されています、改訂者は不詳。(資料2 参照)

6. 英訳 昭和 32 年(1957) Sheep Fast Asleep ジョン・モス牧師

この歌の素晴らしさに気づいた米国人宣教師がジョン・モス牧師です。新潟市の敬和学園高校の校長でもありました。彼の英訳歌詞には国文学者三輪源造の信仰表現が生き生きと引き継がれており、曲とも素晴らしくマッチし、日本語讃美歌の翻訳であることが信じられない程です。

彼の英訳は、米国の讃美歌集に収録され、多くの米国人に愛されています。

以上